

## 当院の患者における TBIシステムに関する アンケート調査

Questionnaire Survey Regarding the TBI  
System among Patients at My Clinic

中澤真紀

Maki NAKAZAWA

キーワード：唾液検査、TBI、患者教育



(なかざわ・まき)

ICDフェロー  
医) With a Smile  
スマイル矯正歯科

### I. 目的

一般的に固定式装置による矯正治療期間中は、ブラッシングが手技的、環境的に難しくなり、カリエスリスクが高まることが予想される。患者のブラッシング技術力を上げるには、正しい知識とモチベーションが必要となる。当院では2009年より矯正精密検査時に唾液検査(う蝕関連菌検査:BML社)を導入し、装置装着前に口腔衛生指導(以下TBI)と患者教育を行っている。これらの事が知識とモチベーション向上にどれほど役立ったかアンケートを実施し検討した。本研究は対象者に趣旨を説明し、インフォームドコンセントを得た上で倫理的に行われた。

### II. 資料および方法

当院で使用している唾液検査キットは専用のガムを5分間噛み、唾液を採取して検査会社に送付すると約2週間後に結果が届く(図1)。

結果は1日の飲食回数・フッ素の使用状況・唾液pH、乳酸桿菌数・う蝕菌比率をスコア化(0~3)して合計のカリエスリスクが計算される。このうちう蝕菌比率に注目して0.1未満をノーリスク、0.1~1未満をローリスク、1.0~5.0未満はリスク、5以上をハイリスクとする。

装置装着前のTBIでは、二色染色液による染め出し後、ワンタフトブラシと歯ブラシの使用方法を指導している。患者教育では光学顕微鏡を用い、患者自身の歯垢を採取して細菌を実際に視認してもらい、歯垢は細菌の塊であることや洗口だけでは落ちない事などについて理解していただく。また媒体を使用しカイスの輪などを説明して虫歯の原因や、フッ素の効用などを説明している。ノーリスク・ローリスクの患者にはフッ素入りの歯磨剤とフッ素入り洗口剤やクロルヘキシジン洗口剤を、ハイリスクの患者にはSnF<sub>2</sub>入りジェルやキシリトールガムの効能などを説明し、さらなる知識の普及に努めている。歯ブラシで歯垢を除去した後はフッ素入り洗口剤の使用を推奨し、キシリトールガムのサンプルや歯磨剤、洗口剤などもその場で無料配布している。

アンケートは2009年より2015年まで唾液検査を実

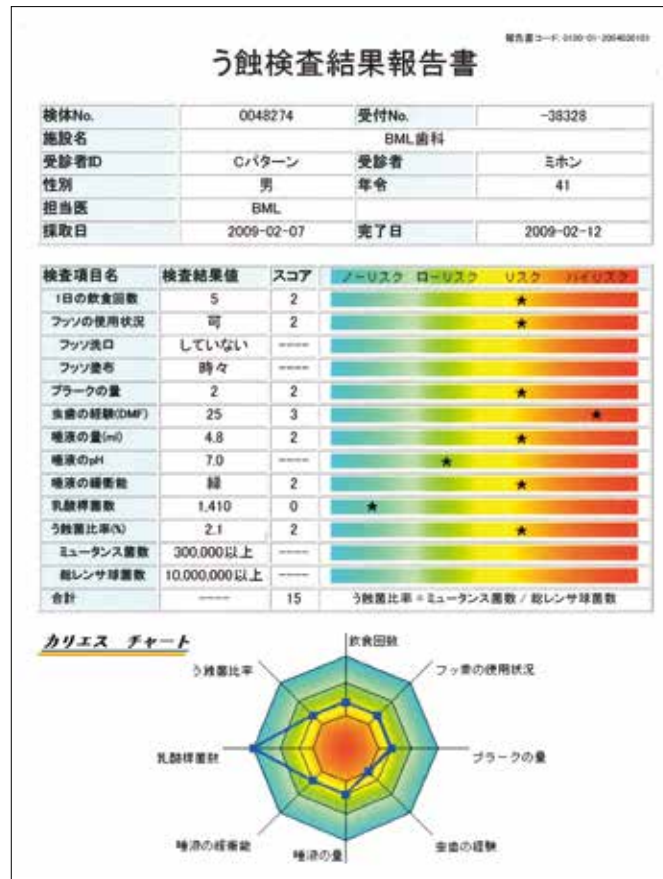


図1 う蝕検査結果報告書

- ① 唾液検査の結果は参考になりましたか。
  - ・参考になった
  - ・どちらでもない
  - ・参考にならなかった
- ② 染色液による染まった箇所をご覧になって、汚れには新しいものと古いものがあることがわかりましたか？
  - ・わかった
  - ・どちらでもない
  - ・わからなかった
- ③ 顕微鏡で細菌をご覧になり実際に動く菌を見て、歯垢（プラーク）は細菌のかたまりだとわかりましたか？
  - ・わかった
  - ・どちらでもない
  - ・わからなかった
- ④ 虫歯の原因について、虫歯の原因は一つではないということがわかりましたか？
  - ・わかった
  - ・どちらでもない
  - ・わからなかった
- ⑤ 歯磨き粉に含まれるフッ素の効用(ききめ)について、歯の質を丈夫にするものということがわかりましたか？
  - ・わかった
  - ・どちらでもない
  - ・わからなかった
- ⑥ 先のとがった歯ブラシ（プラウト）の使用方法について、やり方がわかりましたか？
  - ・わかった
  - ・どちらでもない
  - ・わからなかった
- ⑦ 歯ブラシ練習の指導について、役立ちましたか？
  - ・役立った
  - ・どちらでもない
  - ・役立たなかった
- ⑧ 唾液検査や歯ブラシ練習について、歯磨きに対してモチベーションは上がりましたか？
  - ・上がった
  - ・どちらでもない
  - ・上がらなかった
- ⑨ お渡しした品物で、実際に役立ったものに○をつけて下さい。
  - ・歯ブラシ
  - ・プラウト
  - ・染め出しスティック
  - ・キシリトールガム
  - ・歯磨き粉
- ⑩ もう一度受けたい、見たいと思ったものはありますか？
  - ・唾液検査
  - ・歯ブラシ練習の指導
  - ・顕微鏡による細菌の確認
  - ・染め出し

表1 アンケートの内容

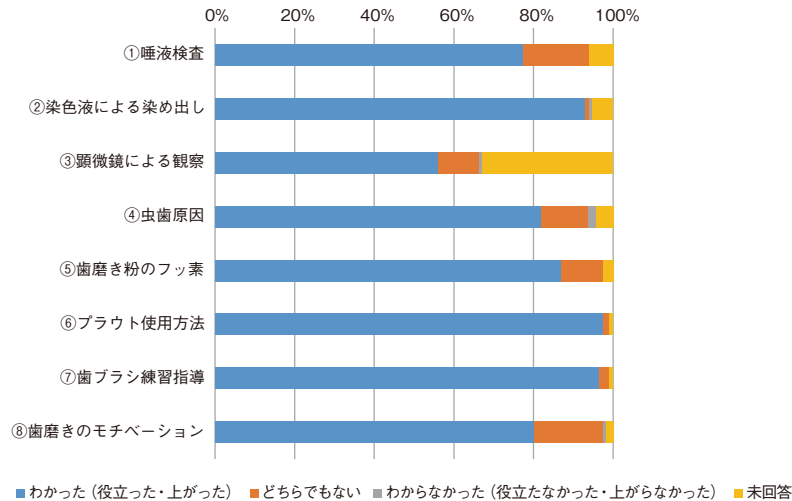


図2 アンケート①～⑧の回答比率

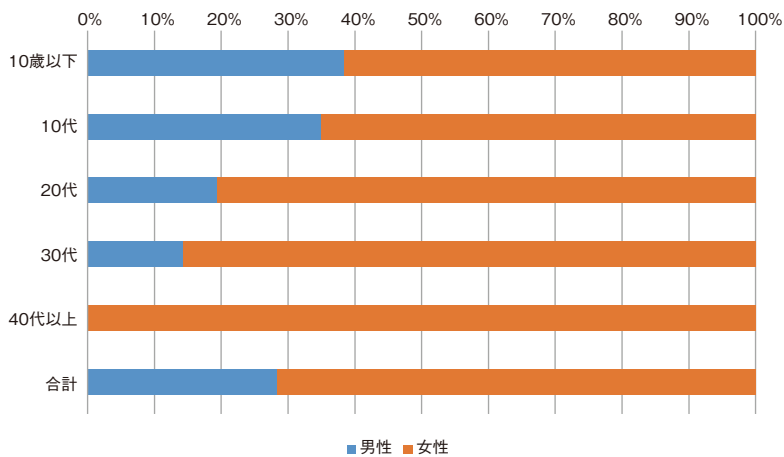


図3 アンケート回答者の男女比率

施した584名のうち、本調査の理解と同意を得た上で回答の得られた116名（男性33名女性83名）を対象とした。年代別では10代が60人と多く、20代が31人、10歳以下13人、30代7人、40代以上5人であった。アンケートは無記名にて行い、知識や手技確認など選択方式で回答する10項目について行った。10歳以下は保護者とともに記入してもらった。アンケートの内容は表1の通りである。

### Ⅲ. 結果および考察

二色染色液による染め出しで、歯垢には新しいものと古いものがある事を理解したと回答した患者は93.1%、ワンタフトブラシの使用方法を理解したと回答した患者は97.4%、TBIが参考になったと回答した患者は96.6%と高い数値を示した。一方で唾液検査が

参考になったと回答した患者は77.6%、虫歯の原因について理解できたと回答した患者は81.9%とやや低い結果となった。う蝕の成り立ちは専門的な内容で一般的には理解しづらく、より分かりやすく伝える工夫が必要と思われる。歯磨きのモチベーションが上がったと回答した患者は80.2%であった。年齢を問わず菌の視認はモチベーションを上げるために効果的であった(図2、3)。

### Ⅳ. 結論

唾液検査やTBI、患者教育は患者のブラッシングのモチベーションを上げるために有効であると示唆された。

本調査報告について開示すべきCOIはありません。